

第5回 各務原市学校建替基本方針策定委員会 議事録

日 時	令和5年4月28日(金) 13時30分～16時30分
場 所	産業文化センター2階 第3会議室
出席委員	鈴木賢一委員長、服部吉彦副委員長、福島茂委員、奥村美樹恵委員、佐藤幹彦委員、篠田勲委員、熊崎健二委員、尾関加奈子委員
欠席委員	阿部雄介委員、杉山幹治委員
議 題	議題1 プール施設について 議題2 学校給食調理場について 議題3 アンケート調査結果の報告について 議題4 ワークショップについて

議事録

1. 開会宣言

2. 議題

議題1：プール施設について

事務局	資料説明 資料1 検討フロー(第2回各務原市学校建替基本方針策定委員会資料5(改訂4)) 資料2 プール施設について 資料3 学校給食調理場について 資料4 アンケート調査結果(1回目)の報告 資料5 ワークショップの開催について 参考資料 各務原市学校建替基本方針策定に関するアンケート調査報告書(中間報告)
委員長	本日は、出席者が過半数に達しており委員会として成立している。さっそく、議題1のプール施設について事務局より説明をお願いしたい。
事務局	(プール施設について 資料説明)
委員長	市内小中学校のプールは老朽化が激しく、維持管理にも課題がある。また、利用率も低いという状況のなか、各学校に整備する方向でいくのか、集約化を図る方向でいくのか、その中間のアイデアなどはあると思うが、みなさんの意見を伺いたい。資料2(6頁)に記載されているように、水泳の指導基準は、「指導については適切な水泳場の確保が困難な場合にはこれらを取り扱わないことができるが、これらの心得については必ず取り上げる」と記載があるが、必ずしも水泳をしなくても学習指導要領上は問題ないということか。
委員	基本的には水泳の授業はやらなくても問題はない。

委員	小学校の学習指導要領の中に、水泳運動系というのがあり、低学年は水遊び、潜る、浮く、高学年になるとクロール、平泳ぎ等など具体的に指導内容が書かれている。学校の先生は学習指導要領をもとに指導することができるが、民間委託したときには、インストラクターの方にはこの学習指導要領を理解した上で指導していただく必要があると思う。
委員長	今の話を伺うと簡単に排除するという決断はできないと感じる。
委員	現状、泳げない子は多いか。
委員	コロナ禍の影響で水泳の授業は3年間実施していない。また、児童・生徒が泳げるかどうか把握できていない。少なくとも、水への抵抗感は確実にあると思う。高学年でも水遊びから入らないといけないと感じる。
委員	中学校も同じような状況で、3年間実施していない。令和5年度は各務原市内の中学校全て実施する予定である。現在の中学3年生は、水着すら持っていない可能性が高い。民間の水泳教室に通っている子は泳げるが、それ以外の子は泳げない可能性が高い。
委員	水難事故等との遭遇を想定すると、水泳の授業をなくすことはありえないのか。
委員	学習指導要領では、できなければやらなくても良いとされている。プールがない学校もあるが、「水に慣れる」、「抵抗感をなくす」といった安全性への学びは必要とされている。
委員	先生方で泳げない人はいるのか。
委員	かつては教員採用選考試験で25mの水泳が必須であった時期もあったが、このところ試験項目からはずれているので全員が泳げるかどうかはわからない。ただし、教員は、授業中に生徒が溺れた場合を想定し、水着を着用し、救助できる体制を常に整えておくことが水泳指導の前提となっている。
委員	小学校のプールを再設置しないという方針で臨んだ時に、民間プールの対応や撤退時の対応、公設民営の対応についてもある程度想定しておく必要があると思う。民営プールのキャパシティは現状でどのような認識か。民間プールが撤退した場合の代替措置をどうするか、公設民営の場合は、民間が撤退した場合でも代替がしやすいと思う。このあたりの考えをお聞かせいただきたい。
事務局	民営プールのキャパは確認していないが、25m プールがあれば、2クラスが来ても対応可能と思うが、一般利用者もいるので、その時々で確認が必要になると思う。現時点では、こちらからは確認していない。プール施設配置MAP(10頁)にもあるが、学校の位置と民間施設の位置を示しているが、状況だけでみれば、場所に偏りがあり、東は民間活用がしやすいが、西は距離もあり、バス移動が必要となる。公設で新たなプールを別途整備し、複数の学校が利用することも想定することはできる。個別で具体的な検討が必要になった場合、それぞれの地域の課題を整理し、検討することが必要と考えている。本日は、今後のプールを維持

	すべきか、という議論をお願いしたい。
委員	資料から現在これだけコストがかかって、教師の負担も考えると、民間施設の利用や市民プールの活用、公設民営プールの整備なども考えていくことも必要と思う。新たな建替えにおいても、こうした特別な施設を少なくして、先生方のマンパワーを違う内容に充当していくことが重要と思う。水泳については、健康や命の安全面という意味でも重要と思うし、子どもたちが成人してもスポーツの選択肢があるということでも重要である。例えば、スキー合宿と同様な考えで、短期的に実施するということも考えられるのではないか。
委員	各中学校を中心にコミュニティ・スクールを立ち上げている。こういった地域と学校が一体となるということを考えると、地域の方が使える形であれば良いと思うので、各学校まではよいが、複数校でひとつ地域の方も利用できるような維持管理も考えていければ良いのではないか。
委員	合理的な意味合いでいうと、屋内の温水プールであれば年間いつでもできる。
委員	屋外だと天候に左右されることも多い。屋根を付ければそういった課題も対応できる。
委員長	事例では、中学校にプールを整備し、そこを小学生も使うという例もあった。屋外プールだと使用期間が6～9月頃に限定されてしまう。ガラス屋根を整備し、前後1・2カ月伸ばして利用している例も聞いたことがある。 各学校にプールを作るという強い意向があれば別だが、今後は学校のプール施設については、集約化を図っていくという方向性をお示しするという形ではどうか。今後の具体的な手法については、別の委員会で図るべきであり、民間を巻き込むということであればなおさらである。 みなさんがご了解いただければ、今後の学校建替において、プール施設は各学校に必ず整備するのではなく、集約化の方向で検討を進めるという方向性をお示しするということがよろしいか。
委員一同	一同了承

議題2：学校給食調理場について

事務局	学校給食調理場について（説明）
委員	今回検討するのは、建替えに合わせて学校給食を単独校方式（以下、単独）にするか、給食センター方式（以下、センター）かを議論していると思っていましたが、説明は、現在の単独の問題とセンターの問題の内容であったと思う。将来にわたって、どのように課題対策していけば良いかの議論ということか。
事務局	学校建替基本方針としては、センターのところもあれば、単独もある。単独もセンターも老朽化が進んでいる。センターも大規模改修の時期が近づいている状況でもある。大きな方針としては、集約化か、単独にこだわった方が

	<p>良いのか、大規模改修に合わせてセンターを一度止めることになるのであれば、単独に戻した方が良いのではないかと、などの意見をいただきたい。</p>
委員	<p>単独にはどのようなメリットがあるのか、デメリットがあるのか。そういった情報がないとわかりづらいし、議論もできない。先ほどの説明を受けて、センター方式をとるのであれば、適正規模の概念があると思う。規模を大きくすると大規模修繕等について大変になる。給食センターを作る際には、大規模修繕の際にローテーションを組んで、いくつかに分けて、大規模修繕が重ならないように配慮することが重要に思う。単独において、メリットなどあれば先生方に伺いたい。</p>
委員	<p>学校の先生方は、食育の観点から一緒に給食をとっていると思う。そういったところからすると、調理員が見られるので、感謝の気持ちや実際にお話もできる。温かいものを温かい時に食せるという意味では五感で感じることができるというのが単独の良いところである。一方でセンターに関しても、温かい状態で食べてもらいたいと思ひもあり、かなり細かな時間調整や冷えない食器を使っているなどの工夫がされている。といったようにそれぞれの良さはある。昨今の子供達の状況をみると、アレルギー対応の必要な子が非常に多く、単独だと調理段階のアレルギー対応に限界がある。センターであれば、アレルギー対応も可能になる場合もある。</p> <p>岐阜中央中では、隣に給食センターがあつて、地域の方とのコンセンサスを形成しながら整備された。長良小学校でも同敷地に給食センターを整備し、運送配車などの動線の課題などもあるため、地域とのコンセンサスを形成し整備された。</p>
委員	<p>単独については、給食をいただくだけでなく、食育に関する学びは多いと思う。調理員の方々も、調理員の目線で子どもたちを見守ってもらえていると思う。残り具合などからも、次のメニューを考えるような共有する場がある。単独では実態に応じた調理メニューや味付けができるが、センターだと対応も難しいと思う。</p>
委員	<p>本校も単独校であり、温かい食事をいただけるということ、食器を返しに行ったときに調理員との交流もでき、食育の観点でも良いと思う。センター給食については、冬場になると最後に配送される学校分は冷めていることもある。アレルギーへの対応も、きめ細かな対応は非常に難しいのではないかと。学校側の対応として行っているのは、アナフィラキシーショックの対応については保護者からエピペンを8本預かっており、どの先生方も使用できるように研修を実施している。</p>
委員	<p>時期や個人個人で差があるとは思いますが、センター給食を試食する機会があった時の私個人の率直な感想としては、おいしいとは感じられなかった。</p>

	味の観点で言えば、単独調理に魅力を感じる。
事務局	従来の衛生管理は、食材を切って、加熱、盛り付けたものを抜きとり、検査を行う方法であったが、HACCP（ハサップ）は、原材料から検査対象になる。工程に応じて確認を行い安全なものだけ次の工程に行く。また工程ごとに調理員がおり、人間の移動もできない。単独では、ドライ運用でなんとか頑張っていた。今後、建直しするとすると衛生管理上、調理場については前室や各部屋を隔離する対応が必要となり、従来よりも面積が必要となる。
委員長	豊橋、豊田、愛西などで給食センターの整備に携わってきたが、工場のように厳しい管理環境である。一部ガラス張りにしたり展示をしたりといった学ぶ学習室を併設している。単独校の良さをセンターでも再現しようとしているのだろうと思う。ただ、みなさんのお話を伺っていると食育のコミュニケーションは重要と感じた。プールもそうだが、子どもの視点が抜けているように思うので、これらの内容を資料の中に追記してもらいたい。
委員	最低限、温かくおいしい食事がとれるという意味では、センターは一定のクオリティを維持しつつ、提供できるのではないかなと思う。
委員	他都市では、給食センター方式の動きになりつつある。 最新の給食センターは、いままでのイメージとは全く違う施設。そういったこともあるので、最新の給食センターについても情報を整理した方が良いと思う。もしセンター化になった場合、場所やセンターの数に関しても検討する必要がでてくると思う。
委員長	確かに、食中毒等のリスクを考えると、大きなセンターを一か所につくるよりは、複数のセンターを作って分散させた方が良いでしょう。アレルギー対応についても1レーンをアレルギー対応食専用レーンとし、対応しているところもあり、各校で対応するよりは楽なような印象を受ける。 上位計画においてもセンターへの移行を謳っているので、給食調理場についても集約化の方向性をお示しすることで良いと思うが、一方で、単独の良さを取り込めるように検討を進める必要はある。

議題3 アンケート調査結果の報告について

事務局	アンケート調査結果の報告
委員長	アンケート結果からは、収納スペースが不足しているという意見が多いが、収納場所が足りていないのか。
委員	収納スペースは足りていないと思う。置き教材も以前よりも増えており、そういったものを保管管理できる場所がない。教室が小さくなることを避けるため、収納場所を教室以外の空間で確保する必要があるかもしれない。

委員	35人学級でもスペースが足りないと感じている。廊下にもロッカーを置いている場合もある。移動するスペースも減少してしまう。
委員	こうなると今後、学校の施設はすべて広くしないといけないことになる。
委員	36人の生徒がいた場合、2クラスとなるので、18人ずつになった場合ゆとりも持てると思う。少ないところになると良いが、大規模校とでは差が出てくる。果たして35人学級が適正人数なのかと思う。子どもたちにとっても狭い空間で学習するのと広々とした空間でやるのでは影響が違う。廊下との境界をやめるなど、現状でできることはそんなところだと思う。
委員	このアンケート結果で何を優先するか順位が見えてきたと思う。現況のサイズによって建て替えを行っていった場合、空間制約や財政面での制約の中で、何を優先すべきかの判断のヒントにもなる。例えば、将来的にプール施設や給食調理場の集約化をするのであれば、現状より敷地内に面積的な余裕ができたり、コストが軽減できたりする可能性も考えられる。余裕スペースを何に使うのか、どこにコストをかけるのかなど、施設全体を総合的にとらえながら物事を決めていく必要があると思う。 一方で、アンケート結果をヒントにする場合の注意点として、割合が多い意見は重要ではあるが、少ない意見にも目を向けて、全体的に整理していければ良いと思う。
委員長	クールダウンや落ち着いていられる空間など、居心地の良さという意見もあり、空間の質的なところも考えていかなければいけない。
委員	間仕切りについて、子どもからは「固定式の間仕切りがあると良い」という意見が多いが、一方で先生は、「可動式の間仕切りがあるとよい」の回答が多く、教室という概念もあるが、子供にもっと楽しんでもらいたいといった視点を持っていると感じる。こうした意見を児童・生徒と先生との思いの違いを比較して議論していくことも必要と思う。
委員	アンケートは現状の困ったことが把握できる点では、非常にいいと思ったが、少ない数値も重要と感じる。
委員長	数値が高いところだけでなく、数値が低いところもよく見て検討していきたいと思う。すごく貴重な意見ですので、委員会の審議の参考とさせていただきたいと思う。

議題4 ワークショップについて

事務局	ワークショップについて資料説明
-----	-----------------

委員	対象学年は何年生か。
委員	参加者の学年を指定した方が良いと思う。低学年は発達段階で難しい。イメージがわからない。趣味からしか意見ができないので、高学年の方が良いと思う。
委員	低学年だと自分の意見を付箋に書くのはむずかしいと思う。経験のある高学年の方がよいと思う。
事務局	高学年から選出してもらうようお願いする。
委員	テーマの中に「学校行事や地域行事に関して」とあるが、数年実施していないので、意見が出ない可能性もある。地域によっては子供会がなくなっている。
委員	過去にやっているのだから、高学年であれば覚えていると思う。
委員長	地域の行事などを聞いて、学校建替基本方針にどう役立てるのか。
事務局	学校建替基本方針に各務原らしさや地域の特性を加味したいと考えており、地域の特色という観点が拾えればと考えている。
委員	テーマがわかりづらい。教室については、アンケート結果もあるので、ここで再び意見を聞く必要があるのかどうか。むしろメンタル面の意見が集められるテーマがよい。例えば、家庭で過ごしている時や学校で過ごしている時、どのように感じているか、などが聞き出せるとよい。これからの学校施設には、利用者の学校での過ごし方を考えることが重要なポイントになってくると思う。
事務局	アンケートは、気持ちの詳細までは拾い上げられないので、そういった部分を拾えられればと思う。
委員	ワークショップなので、本当に様々な意見が出てくるので、このテーマでもいいのではないかな。
委員長	そういった意味では、自由に書ける白紙のカードがあるとよい。
委員	カードはあくまでも例という認識でよいのか。カードも言葉と写真のイメージで固定されないような工夫が必要である。
事務局	資料内はイメージであり、複数のカードを用意している。 テーマについて考えるときのヒントになれば良いと思う。写真だけではなく、イラストや地域活動の写真なども考えられる。
委員長	問いかけになり、そこから意見が出てくると良い。カードに関しては、皆さんの意見を受けて工夫をしていただくということでお願いします。

4. 今後のスケジュール（予定）

次回の委員会は6月30日（金）13時30分～15時30分 産業文化センター2階第3会議

室にて開催を予定している。